



『公民館活動のさらなる発展願って』

小諸市教育委員会
教育長 小林 秀夫

市民の皆様には、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は、さまざまなかたちで公民館活動にかかわっていただき、ありがとうございます。

日本の長寿化はますます進み、近いうちに人生90年時代を迎えるのではないかとの声も聞かれるようになりました。私たちが、これから生涯にわたって健康で文化的な生活を送っていくためには、これまでに以上に多様な文化的な活動が必要になってきそうです。

このような活動を進めていくための中核的な場として、公民館があります。公民館活動のキーワードは「つどい」「学ぶ」「つなぐ」です。地域の皆様方のつながりを大事にした活動、学校やサークル団

体などと連携した活動、世代を超えて交流しあう活動など長寿化社会に向かって、公民館活動の役割は、ますます大きくなってきます。

私たちは、活動に参加することによって、新しい仲間を得たり、自分の中に眠っていた可能性を発見したりして、自分を新しくしていくことができます。本年も市民の皆様方のご参加と、ご協力によって、公民館活動がますます発展していきますよう、よろしくお願いいたします。



『心づかいに
あふれる地域』

小諸市公民館
館長 松本 文一

市民の皆様には、希望に満ちた新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は公民館をはじめ文化会館・働く婦人の家等文化センターの諸事業に対しご支援、ご協力



を賜り心より感謝申し上げます。

新年を迎えると、「今年一年いい年でありますように」と思わず手を合わせます。ところが、個人の問題というところもありますが、家庭や学校や社会・地域・グループなどでの周りの人との関わりを抜きにしたり、自分が生きていく社会を度外視したりしては

なかなか「いい年」とはなりません。

昨年の公民館まつりの時、女の子が小さな手のひらに50円玉をのせ「落ちていました」と届けてくれました。自動販売機のもとに落ちていた100円玉やお金の入った封筒や財布が落し物として届くこともよくあります。また、文化センターにはプリンターのインクカートリッジの「回収箱」が置いてありますが、先日も入りきらないくらいいっぱいになっていました。使い終わったカートリッジは、ごみとして出してしまえば手間がかからないのに、廃油もそうですが、わざわざ持ってきてくれる方が少なくありません。

ニュース等を観ていると、昔に比べてモラルは低下するし、世知辛い世の中になったと感じることが多くあります。しかし、ここにいるとそんな心づかいにふれ、まだまだ捨てたものじゃないと心が温かくなります。ちよつとした心づかいにあふれ、幸せを感じられる地域づくりのお役にたてるよう努めてまいります。本年も市民の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。